

令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立柏木小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月18日】

授業作り	重 点	他者と協働して考え、自分で判断し、その考えを表現できる主体者を育てる。
環境作り		3年生以上の教科担任制と、児童自身が学習コースを選択するコース別学習を行う。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ○最後まで相手の話をしっかり聞く。 ○口形を意識し、はっきりとした発音で話す。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて文を読む。 ○長音、拗音、促音などの表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使う。 ○10までの数の合成・分解を理解する。 ○1位数と1位数の加法・減法ができ、生活の中で適切に使う。 ○加法・減法が用いられる場面を理解し、式に表す力を身に付け、生活の中で適切に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①相手の目を見て話を聞くことの指導 ②音読練習の継続 ③マスや行などの形式の工夫や、視写 ④具体物や半具体物などの使用 ⑤お話作り（問題作り） ⑥視覚による文の主語・述語の関係の確認 ⑦文章に書かれている順序及び正しい表記方法の確認 ⑧タブレット端末による漢字の書き取り、計算問題の反復練習による習熟
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ○最後まで集中して人の話を聞く。 ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使う。 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気付き、敬体で書かれた文章に慣れる。 ○文の中の主語と述語の関係を理解する。 ○文字や言葉、漢字を正確に表記し、既習の漢字を文中で使うことができる。 ○3けたの数の繰り上がり、繰り下がりのある計算を正しくする。 ○長さや水のかさの単位を理解し、測定できる。 ○時間の単位を理解し、見通しをもって行動できる。 ○乗法九九を構成する式とその答えを覚えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①話の聞き方や聞く姿勢の継続的な指導 ②継続した音読練習 ③文の中における主語と述語の確認 ④日記やミニ作文等、既習漢字を適切に使った文章を書く機会の設定 ⑤読み聞かせや読書活動の充実 ⑥漢字の反復練習 ⑦プリントやタブレット端末での計算の反復練習 ⑧長さや水のかさの測定の時間の確保と、量の感覚の定着 ⑨生活の中での時刻や時間の感覚の定着 ⑩九九表を活用と、百マス計算による反復練習
3 学 年	<p>・国語科では、新宿区学力定着度調査のすべての領域で約4～5ポイント区平均より上回っている。今後もすべての領域でバランスよく学力の高さを維持していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○思いや考えをもち、それを言葉や文にして伝えることができる。 ○主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示語や接続語の役割、段落の役割を理解する。 ○算数科の前学年までの知識・技能を使って問 	<ul style="list-style-type: none"> ①書くことや話すことによる自分の考えを伝える練習 ②国語辞典の活用 ③5W1Hや、文型を意識した書きかたの練習と書くことの日常化

	<p>・算数科では、新宿区学力定着度調査のすべての項目で6～8ポイント区平均より上回っている。「応用・記述式」の観点が他の観点より正答率が若干低い。そのため、発展的な問題を意図的に取り入れながらさらに力を伸ばしていく。</p>	<p>題を解くことができる。</p> <p>○具体物操作や測定、作図などの算数的活動を通して、量や図形の感覚を身に付けている。</p> <p>○解き方や考え方を伝えあう活動を通して、自分なりの理解や考えを獲得する。</p> <p>○自分の苦手な問題の克服し、自信をもって新しい問題に挑戦する。</p> <p>○友達の見方・考え方のよさを自分の学習に取り入れることができる。</p>	<p>④九九や3桁の加減筆算の復習</p> <p>⑤水のかさや長さの測定の時間の確保</p> <p>⑥ブロックや立体などの具体物操作や作図などの算数的活動の充実</p> <p>⑦ペア学習や小集団活動の充実</p> <p>⑧毎時間の「ふりかえり」の実施</p> <p>⑨漢字・計算といった基礎・基本の学習の反復</p> <p>⑩自分なりの課題解決の時間の確保</p>
<p>4 学 年</p>	<p>・国語科では、新宿区学力定着度調査の「応用」の平均正答率は区平均より下回っており、学習したことを基に自分の考えを説明したり、相手から聞いたりする練習が必要である。</p> <p>・算数科では、各問題において区平均と同等か上回っており、従来の指導を継続し、学力のペースアップを図っていく。</p>	<p>○既習の漢字を文章の中で使うことができる。</p> <p>○考えや感想を述べるための語彙を増やし、自己表現の幅を広げる。</p> <p>○自分なりの感想や考えを交流する中で、答えのない問いに対する個々の考えを磨く。</p> <p>○算数科の前学年までの知識・技能を使って問題を解くことができる。</p> <p>○具体物操作や測定、作図などの算数的活動を通して、量や図形の感覚を身に付けている。</p> <p>○解き方や考え方を伝えあう活動を通して、自分なりの理解や考えを獲得する。</p> <p>○自分の苦手な問題を克服し、自信をもって新しい問題に取り組む。</p>	<p>①心情曲線やグラレコなどそれぞれの児童がより思考・表現を進めるための方法を提示</p> <p>②それぞれの問いを探究する活動を設定し、互いの考えや意見を認め合い、相互に高め合える場を設定</p> <p>③加減剰余の反復練習</p> <p>④水のかさ、時間、長さ、重さ、面積等の測定の時間の確保</p> <p>⑤ブロックや立体などの具体物操作や作図などの算数的活動の充実</p> <p>⑥ペア学習や小集団活動の充実</p> <p>⑦「めあて」と「ふりかえり」の往還</p> <p>⑧デジタルドリルや東京ベーシックドリルの活用</p> <p>⑨自分なりの課題解決の時間の確保</p>
<p>5 学 年</p>	<p>・国語科では、新宿区学力定着度調査の結果において、基礎、応用ともに区平均を5ポイント前後下回っている。全体的に「読む、聞く、書く」の基礎的な学力の向上が必要である。</p> <p>・算数科では、全国平均とは差ほど変わらない。しかしながら、基礎・応用共に区平均は下回っている。基礎的な学力の向上は引き続き必要である。</p>	<p>○多様な語句に触れ、文脈の中で意味を理解し、使うことができる。</p> <p>○文章の要点を把握し、根拠をもとに考えることができる。</p> <p>○話す・書く活動を通して、伝わりやすい構成を考えることができる。</p> <p>○思ったことや考えたことを伝えあう活動を通して、自分なりの理解や考えを獲得することができる。</p> <p>○既習の漢字を文章の中で使うことができる。</p> <p>○算数科の前学年までの知識・技能を使って新しい問題を解くことができる。</p> <p>○具体物操作や測定、作図などの算数的活動を通して、量や図形の感覚を身に付けている。</p> <p>○生活の中で算数を活用し、自分なりの問もち、情報を集めたり整理分析したりする学習</p>	<p>①ブックトラックの活用と朝読書時間を確保することで語彙と背景知識を拡大する。</p> <p>②語句の獲得のため、国語辞書とタブレットを併用し、調べる力の育成を図る。</p> <p>③「問い→根拠→自分の考え」の型を徹底し、線を引く、書き込むなどの可視化、応用問題への対応力を強化する。</p> <p>④ペアトークを毎時間位置付け「理由を付けて話す」「相手の考えをよく聞き受け入れて話す」ことを意識できる環境を設定する。</p> <p>⑤習った漢字を「書く」だけでなく文章内で使う、ふり返りなど生活で活</p>

		を通して、自身の間に対する答えをまとめることができる。	用できる反復指導を充実させる。 ⑥ブロックや立体などの具体物操作や作図などの算数的活動の充実 ⑦長さ、体積、面積、時間、重さ、角度等の測定の時間の確保
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科では、区学力定着度調査の結果「話すこと・聞くこと」の領域が区平均より下回っており、音声聞いてメモを取り、設問に答えることに課題がある。 ・算数科では、区学力定着度調査の結果、区平均をすべての項目を上回っていたが、学力層についてはC層の割合が一番多いという結果となった。 ・全国学力調査の国語科記述式の問題が都平均、全国平均を下回っていることから自分の考えを文章で書く力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の場面では、思考したことを発表することにとどまらず、聞いた内容を発信したり、聞いて感じたことまとめたりすることができるようにする。 ○学び合う活動を増やすことで、学力を学習者同士で高めることができるようにする。 ○カラーテストを使用していないため、テストという形式に慣れていない。プリント、スキル、まなびポケットのテストパークを活用して、テストの形式に慣れることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①国語「読むこと」の学習における、共有の場面で自分の考えたことをペアで交流し、相手の発表を他者に紹介する活動を行うなど、他の領域でも「話すこと・聞くこと」の資質・能力を高めることができるようにする。 ②インタビューの活動について、色々な立場の人へのインタビューの機会を増やして、聞いてメモを取ることができるようにする。 ③国語の授業だけではなく、学級会や委員会活動などの特別活動で、合意形成の仕方などの指導を実施する。 ④小数や分数の計算の復習 ⑤わり算の筆算、かけ算の筆算の反復練習
特 別 支 援		<ul style="list-style-type: none"> ○教師の話を中心して聞き取り、発達段階に応じて内容を理解し行動することができる。 ○課題に集中して取り組み、最後までやり遂げさせる。 ○自分の思いや考えを言葉やジェスチャーなどで伝えることができる。 ○発達段階に応じた数の概念や計算方法を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教室環境を整備し、必要に応じて個の声かけ ②子供の実態に応じた学習グループの編成 ③一人一人の興味・関心や発達段階に応じた課題の設定 ④多様な表現活動体験の実施 ⑤考えを友達と共有する場の設定 ⑥安心して自分を表現できる学級の雰囲気作り ⑦視覚や感覚に訴える教材の作成 ⑧スモールステップでできることの積み上げ ⑨タブレット端末を活用した個別最適な学習